

事故の原因

老化にともない、転倒などの事故が起こりやすいので、日頃から十分に気をつける。

- 1) 身体の衰え
要介護者本人は出来ると思っても、足もとがふらついたりして事故を起こす事がある。
- 2) 生活環境の不備
要介護者の安全が守られるように住宅が作られていない場合が多いので、例えば段差を無くす、手すりを付けるなど、出来るだけ生活しやすい環境を整える。
- 3) 介護技術の未熟
未熟な技術や油断、判断の誤りが大きな事故につながる。日頃から学習と経験を積み、慎重に対処する。

事故予防のために

要介護者の事故は、寝たきりにつながりやすいので、身体状態に注意する。

- ・ 病気・治療の状態・認知症の有無・目・耳の状態・手足の状態・座れるか・歩けるか・痛みはないか・呼吸の状態・血圧（高い場合は、脳出血や、くも膜下出血を起こしやすい）・狭心症や心筋梗塞の有無（心臓発作を起こしやすい）・糖尿病の有無（低血糖や糖尿病昏睡を起こしやすい）・頭の手術（薬をきちんと飲まない、けいれんを起こすことがある）・薬の管理は出来ているか。
- ・ 誤嚥に気をつける

場面別救急処置

<転倒・転落したら>

- 1) 全身状態、怪我の様子を見る。頭部は危険なので注意。
- 2) 状況に応じて 119 番通報。
- 3) 名前を呼び意識の確認。痛み、吐き気、めまいの確認。
- 4) 骨折、脱臼、捻挫等の疑いがある場合は動かさない。（固定する）骨折の状況、腫れ、変形、皮膚の色、痛みを確認。
- 5) 出血がある場合はガーゼや清潔な布を当て傷口を保護。
- 6) 全身を毛布などで包み保温。

<浴槽でおぼれたら>

- 1) 浴槽から引上げる（栓を抜いて湯を抜く。無理なら顔を水面上にだす）。
- 2) 声をかけ意識の有無を確認し、協力者がいれば声をかけ、安定した場所に移し側臥位にして水を吐かせ、119 番に通報する。
- 3) 意識がなかったら心肺蘇生法をこころみる。

<食道内・気管に食べ物を詰まらせた時>

- 1) 異物が取れそうな場合は、清潔なハンカチや布を指に巻いて口の中のものを取り除く。異物の様子を口の奥まで見る。吐いたものでの感染には十分気をつける。
- 2) 状況によっては 119 番に通報する。
- 3) 意識があれば強い咳をさせ吐き出させる。手の付け根の部分で背中（左右の肩甲骨の間）を叩く。
- 3) 吐きださせても誤嚥性肺炎になり易いので必ず受診する。
- 4) 異物の除去に掃除機を使用することは、口の中を傷つけてしまうことから、使用しない。

<意識がない場合・直ちに 119 番通報>

- 1) 大人、子供にかかわらず反応が無い場合は直ちに心肺蘇生法を開始する。
- 2) 胸骨圧迫（心臓マッサージ）をすることにより胸中の圧が高まって異物除去の効果がある。

<気管に入ってしまった時>

- 1) 強く咳払いをさせて吐き出させる。
- 2) 状況によっては 119 番に通報する。
- 3) 吐きださせても誤嚥性肺炎になり易いので必ず受診する。
- 4) 異物の除去に掃除機を使用することは、口の中を傷つけてしまうことから、使用しない。

<台所で着ているものに火がついたら>

- 1) 濡れふきんや水で火を消す。
- 2) 状況によっては 119 番通報する。
- 3) 痛みがとれるまで患部を流水や保冷剤、氷などで冷やす。
- 4) 水泡を破らないように気をつける。
- 5) 身体を冷やさないように全身を毛布などで保温する。
- 6) 患部についての衣類は無理にはがさない。軟膏など医薬品はぬらない。

<薬を誤って飲んだら>

- 1) 意識がある場合吐き出させる。
- 2) 状況によっては 119 番通報。
- 3) 飲んだ薬の容器、吐いたものは取っておく。
- 4) 意識がない場合心肺蘇生法を試みる。
- 5) 全身を毛布などで包み保温する。